

報道機関各位

令和8年6月17日

## 国立の夏の風物詩 第38回くにたち朝顔市を開催します



市では、毎年恒例の夏の風物詩として、市内にある「朝顔の里」で育てられた色鮮やかな日本朝顔を販売するくにたち朝顔市を開催します。

期間中、朝採れのくにたち野菜や風情ある江戸風鈴の販売、飴細工やキッチンカーなどの出店もあります。

市内外問わず多くの方にご覧いただきたく、ぜひ、貴媒体での告知および取材・掲載方、お願いいたします。

### 概要

■日時 7月4日(土)・5日(日)午前6時～午後2時

※売り切れ時は予定時間前に終了します(雨天実施、荒天中止)。

■場所 大学通り緑地帯 (一橋大学正門南)

■価格 1鉢2,000円(有料で宅配サービスあり)

■主催 くにたち朝顔市実行委員会(国立市商工会内)

### ■朝顔市開催のきっかけ

朝顔市がまだなかったころ、市内のイベントとしては、春のさくらフェスティバル、秋の天下

市・市民まつりがあり、夏のイベントだけがぽっかりと空いて、寂しい状況でした。

何か、この時期に大学通りを活かしたイベントはできないかと市民の有志が考え、せっかくなら「子どもたちにふるさとの思い出」を提供できたら、との想いも重なって、平成元年から「くにたち朝顔市」が始まりました。

## ■国立で朝顔が栽培されるようになるまで

当初は、入谷で行われている朝顔市の仕入先であった江戸川区内の栽培者より朝顔を仕入れていました。

しかし、第1回目から参画していた国立市の農業者が、平成2年に「朝顔・鉢物研究会」を結成し、江戸川区内の農園に研修に出かけ、本場の技術を学びながら、試行錯誤の中で朝顔栽培に乗り出しました。第2回目では試行的に、国立産朝顔が展示されましたが、半数以上は江戸川区産に頼っての開催となりました。

第3回目には生産者が加わり、計5軒の地元農業者によって、販売される全てが国立産の朝顔となりました。現在は、朝顔栽培農業者が共同して「朝顔の里」をつくり、国立産朝顔を提供し続けています。

## ■国立産の朝顔ってどんな花？

「朝顔の里」で栽培される朝顔は「日本朝顔」で、あんどん仕立てとなっています。日本朝顔の最大の特徴は、大輪であることです。花は午前中に鑑賞を楽しめますが、午後には萎んでしまいます。都度、花芽を摘むことで秋口までの長期間、鑑賞することができます。

問い合わせ

国立市 生活環境部 まちの振興課 商工観光係  
TEL 042-576-2111 内線(348)